

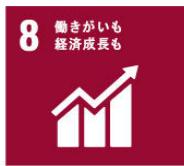
エコアクション21

2025年6月期

環境経営レポート

【期間：2024年7月1日～2025年6月30日】

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



作成：2025年8月1日

株式会社キャロットシステムズ

1. 組織の概要

(1) 事業所名および代表者名

株式会社キャロットシステムズ

代表取締役 西澤 勇司

(2) 所在地

① 本社

〒252-0231

神奈川県相模原市中央区相模原 4-7-10 エス・プラザビル 1 階

(3) 環境管理責任者氏名および担当者連絡先

責任者：沖山 昌由【環境管理責任者】

事務局：森川 真子【EA21 EMS 事務局】

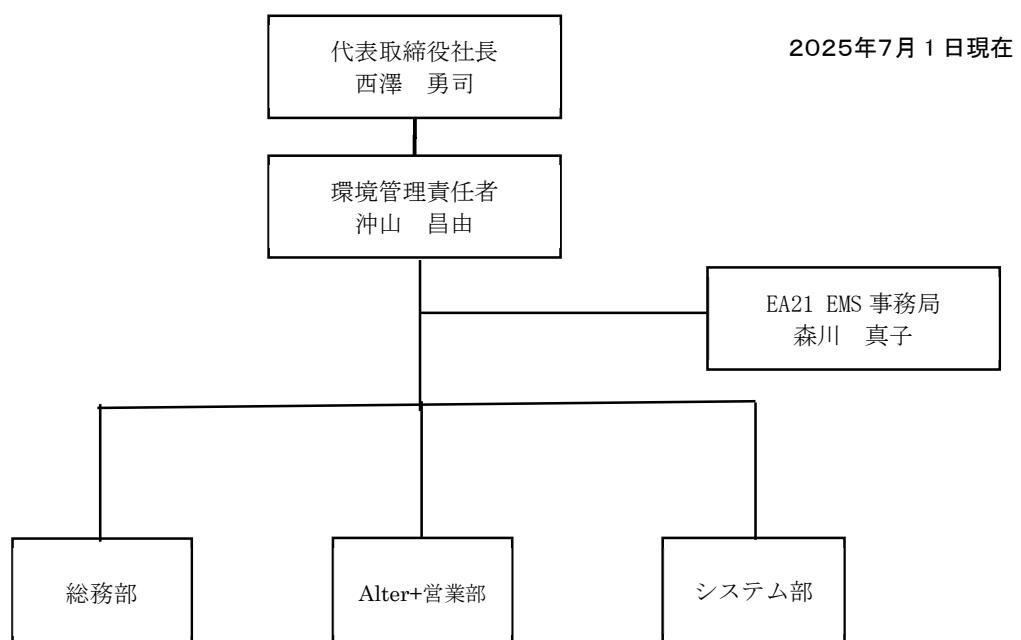
連絡先：TEL 042-750-0007

FAX 042-750-0005

URL <https://www.carrotsys.co.jp/>

Email info@carrotsys.co.jp

組織図



【図 1】

（4）事業活動の内容

- ①電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の企画・設計・製造・販売
- ②防犯機器、監視機器およびその周辺機器の企画・設計・製造・販売
- ③計測制御系ソフトウェアおよび事務処理系ソフトウェアの開発設計・販売・保守
- ④電子応用装置、コンピュータ応用装置、防犯機器および監視機器の設置工事・保守
- ⑤医療機器の企画・設計・製造・販売・保守

（5）事業の規模

【表1：売上高と従業員数の推移】

項目	単位	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期
売上高	千円	945,397	621,890	784,748
従業員数	人	26	26	25
床面積	m ²	435.2	435.2	385.0

※従業員数には代表者を含む、非常勤取締役を含まない。

2. 対象範囲

当社事業活動の全組織、全活動、全従業員

活動レポートの発行日 …… 2025年8月1日

次回レポートの発行予定日 … 2026年8月頃

3. SDGsの取組について



持続可能な開発目標（SDGs）とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための取組みです。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGs の目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030 年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

キヤロットシステムズのSDGsの取組

キヤロットシステムズでは、創造と革新を展開し、未来に向けてチャレンジを繰り返しながら、次世代の社会に貢献できるものづくりを進めてまいります。

Action 1 持続可能な開発目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」



- 男女問わず仕事に取組める環境の構築とその実践

Action 2 持続可能な開発目標 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」



- 地球温暖化対策の一環としてクールビズを実施します。
- 営業車で環境に配慮した運転（エコドライブ）を実施します。
- エコアクション21の中で使用電気量の目標を設定し取り組んでいます。

Action 3 持続可能な開発目標 8「働きがいも経済成長も」



- 男性、女性の区別なく、働きがいのある仕事の確立を推進しています。

Action 4 持続可能な開発目標 9「産業と技術革新の基盤をつくろう」



- 仕事を通してお客様に創造と革新を提供する。（社是）
- お客様のご要望に耳を傾け、安全・安心・満足を提供します。
- エコアクション21活動を通し、環境に配慮した経営を進めます。

Action 5 持続可能な開発目標 11「住み続けられるまちづくりを」



- 安全安心事業を通し、住みやすい街づくりに貢献していきます。

Action 6 持続可能な開発目標 12「つくる責任つかう責任」



- ・廃棄物のリサイクルを進め、廃棄物を分別しごみの削減を推進します。
- ・グリーン購入を進めます。
- ・環境に配慮した設計および製品づくりに務めます。

Action 7 持続可能な開発目標 13「気候変動に具体的な対策を」



- ・エコアクション21の取組、紙の消費削減により、気候変動対策に取組みます。

Action 8 持続可能な開発目標 16「平和と公正をすべての人に」



- ・防犯機器の販売・施工などの安全安心事業により、平和で犯罪のない社会を目指します。

Action 9 持続可能な開発目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」



- ・神奈川県と連携して取組等を行うとともに、県内パートナー間の連携を図るため「かながわSDGsパートナー」として登録しました。
- ・相模原市・地域企業等と協働して取組を進めるため、「さがみはらSDGsパートナー」として登録しました。
- ・さがみはら地球温暖化対策協議会において、「SDGsさがみはらエコ宣言」を登録しました。
- ・環境意識を高めるため、「エコ検定」に社員全員でチャレンジします。

4. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

当社は、電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の設計・製造、防犯機器ならびに監視機器の設計・製造、医療機器の設計・製造等の事業活動を行っております。

当社はかけがえのない地球の一市民として、我々の事業活動が環境に影響を与えることを認識した上で、“環境と企業活動の調和”を求め、環境に対して保全と汚染予防に努め、継続的改善を推進します。

1. 環境に関する法的要件およびその他の要件を順守します。
2. 当社の行う企業活動、製品・サービスが環境に与える影響に対して、以下の事項を重点に据えて環境保全、汚染予防を推進します。
 - ①環境に配慮し環境負荷低減に寄与する製品づくり
 - ②省エネルギーおよび省資源の推進
 - ③廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進
 - ④グリーン購入の推進
3. 環境負荷低減活動への参加と実践をします。
4. これらの方針を達成するために環境目標を定め、継続的改善を行います。

この環境方針は全従業員および当社内で働くすべての人に周知徹底し、環境意識の高揚に努めます。

制 定：2008年 5月17日
改定1：2012年 7月 1日
改定2：2013年 7月 1日
改定3：2015年 7月 1日
改定4：2018年 8月20日

株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤勇司

5. 環境経営目標

当社では、環境負荷の低減のために下記の目標を掲げて活動を行いました。

項目	25年6月期 実績	26年6月期 目標	26年6月期 改善率	中長期 27年6月期 目標	中長期 27年6月期 改善率	中長期 28年6月期 目標	中長期 28年6月期 改善率
	24/7-25/6	24/7-25/6	対25年6月期	26/7-27/6	対25年6月期	27/7-28/6	対25年6月期
①環境に配慮し環境負荷低減に寄与する製品づくり							
1 白箱にラベル表示とした簡易パッケージ	2機種	2機種	-	2機種	-	2機種	-
②省エネルギー及び省資源の推進							
1-1 電力使用量(kwh/年)	31,758	27,177	14.4%	27,014	14.9%	26,851	15.5%
1-2 電力使用量(kwh/年・売上(千万円))	404.7	437.0	-8.0%	434.0	-7.2%	432.0	-6.7%
2-1 ガソリン使用量(l/年)	2,764	3,314	-19.9%	3,314	-19.9%	3,040	-10.0%
2-2 ガソリン使用量(l/年・売上(千万円))	35	53	-50.5%	53	-50.5%	44	-25.0%
3-1 車の燃費管理(l/km)	16.4	16.6	-1.2%	16.7	-1.7%	16.6	-0.8%
4 上下水道使用量(l/年)	241	262	-8.7%	261	-8.3%	251	-4.3%
5-1 CO2排出量(kg/年)	19,341	19,770	-2.2%	19,670	-1.7%	19,341	0.0%
5-2 CO2排出量(kg/年・売上(千万円))	246	318	-29.0%	316	-28.2%	314	-27.4%
③廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進							
2 ゴミ排出量(産業廃棄物)(kg/年)	2,150	955	55.6%	946	56.0%	946	56.0%
1 ゴミ排出量(一般ゴミ)(kg/年)	376	286	23.8%	283	24.6%	280	25.4%
④グリーン購入の促進							
1 グリーン購入	3品目	3品目	-	3品目	-	3品目	-
⑤環境負荷低減活動への参加							
1 環境負荷低減活動への参加	-	SDGs活動に適宜参加する。					
2 社員のエコ検定の合格率	80.0%	100.0%	20.0%	100.0%	-	100.0%	-

※ 1 CO₂排出量は、環境省 WEB サイトにて公開されている「別表 1 環境への負荷の自己チェック表」を 利用し、適切な排出量係数を用いて、電力使用量、自動車に用いるガソリン使用量の排出量の総計として算出しました。

※ 2 電力使用量及び上下水道使用量については、入居テナントと共に使用で、子メーターによる案分で算出したものです。

※ 3 化学物質の使用はありません。なお、お客様の指定がない限り、半田は無鉛半田を使用しています。

※ 4 SIC 分割除分を考慮

6.環境経営計画

環境経営計画（環境経営目標から）	実施項目	実施時期	担当者	SDGs 開発目標
① 環境負荷低減に寄与する製品づくり	1. 量販用標準品でない商品は、白箱にラベル表示とし、簡易パッケージとする。	通年	Alter+ 営業部	
② (1) 省エネルギー及び省資源の推進のため、電力使用量の削減を図る。	1. 全社員を対象にした実施計画説明と教育	9月	沖山	
	2. 不在箇所の消灯励行	通年	全員	
	3. エアコン設定温度の周知と徹底	通年	全員	
	4. クールビズのガイドライン制定と実践	5~10月	全員	
② (2) 省エネルギー及び省資源の推進のため、ガソリン使用量の削減を図る。	1. エコドライブ 10ヶ条の社員教育（年1回以上）	10月	木下	
	2. 車両別ガソリン使用量の把握	通年	沖山	
	3. エコカー台数及び使用率の向上	通年	沖山	
② (3) 車の燃費管理	エコドライブを推進することにより、社用車の燃費向上を図る。	通年	全員	
② (4) 上下水道使用量の抑制	使用量は少ないが、削減を図るため、ステッカーを貼り節水を敢行して行く。	通年	全員	
③ 廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進のため、ゴミの軽量化を進める。	1. 3Rに関する社員教育	通年	沖山	
	2. 着荷した緩衝材における「ゴミ⇒梱包資材」への転換	通年	全員	
	3. ダンボール素材を選別しリサイクルする。	通年	全員	
	4. 飲料及び弁当容器等生活ゴミの各自持ち帰り	通年	全員	
	5. 一人当たりの排出量を管理し、削減を図る。	通年	全員	
④ グリーン購入の推進を図る。	グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPNDB（グリーン購入ネットワークデータベース）掲載商品の購入点数を増やす。	通年	総務部	
⑤ エコ検定受験(環境負荷低減活動への参加)	環境意識を高めて実践するために、「エコ検定」にチャレンジし、全員合格するまで受験する。	12月	全員	

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

環境経営計画 (環境経営目標から)	主な活動実施の内容	活動評価 *	コメント
① 環境負荷低減に寄与する製品づくり	1.量販用標準品でない商品は、白箱にラベル表示とし、簡易パッケージとする。	○	
② (1) 省エネルギー及び省資源の推進のため、電力使用量の削減を図る。	1.全社員を対象にした実施計画説明と教育	○	適時実施
	2.不在箇所の消灯勧行	○	日に数回の確認を行う
	3.エアコン設定温度の周知と徹底	○	
	4.クールビズのガイドライン制定と実践	○	気温を確認し実施
② (2) 省エネルギー及び省資源の推進ため、ガソリン使用量の削減を図る。	1. エコドライブ 10ヶ条の社員教育 (年1回以上)	○	安全運転の PR と併せて実施
	2.車両別ガソリン使用量の把握	○	毎月実施
	3.エコカー台数及び使用率の向上	○	購入実績なし
② (3) 車の燃費管理	1.②(2)のデータと連動して、月々の走行距離より燃費を計算している。	○	毎月実施
② (4) 上下水道使用量の抑制	1.使用量は少ないが、削減を図るため、ステッカーを貼り節水を敢行して行く。	○	
③ 廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進のため、ゴミの軽量化を進める。	1. 3Rに関する社員教育	○	適時実施
	2.着荷した緩衝材における「ゴミ⇒梱包資材」への転換	○	都度実施
	3.ダンボール素材の選別廃棄	○	毎週金曜日廃棄
	4.飲料及び弁当容器等生活ゴミの各自持ち帰り	○	毎日確認、各自が持ち帰り
	5.日々の排出量を管理し、削減を図る。	○	社員輪番で毎日確認
④ グリーン購入の推進を図る。	グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPND (グリーン購入ネットワークデータベース) 掲載商品の購入割合を計画して適正な購入に努めます。	○	購入担当者が都度適正に判断
⑤ エコ検定受験 (環境負荷低減活動への参加)	環境意識を高めて実践するために、「エコ検定」にチャレンジし、全員合格するまで受験する。		2025年11月に実施予定

* 活動評価は「主な活動実施の内容」の評価です。

8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに 次年度の環境経営目標及び環境計画

(1) 1年間の結果

環境目標項目	年度目標	年間実績 ('24年7月～ '25年6月)	評価	次年度目標 ('25年7月～ '26年6月)
① 白箱にラベル表示とした簡易パッケージ	2機種	2機種	○	2機種
② 1-1 電力使用量の削減(年)	32,502Kwh	31,758Kwh	○	27.177Kwh (注)
1-2 電力使用量の削減 (年・売上(千万円)当り)	523Kwh	404.7Kwh	○	520.0Kwh
2-1 ガソリン使用量の削減(年)	3,314 ℥	2,764 ℥	○	3,314 ℥
2-2 ガソリン使用量の削減 (年・売上(千万円)当り)	53 ℥	35 ℥	○	53 ℥
3-1 車の燃費管理	16.5km/ ℥	16.4 km/ ℥	×	16.6 km/ ℥
4-上下水道使用量の削減(年)	264 ℥	241 ℥	○	262 ℥
5-1 二酸化炭素の削減(年)	19,870kg	19,341kg	○	19.770kg
5-2 二酸化炭素の削減 (年・売上(千万円)当り)	320kg	246kg	○	318kg
③ 1 産業廃棄物の削減(年)	965kg	2,150kg	×	955kg
2 一般廃棄物の削減(年)	289kg	376kg	×	286kg
④ グリーン購入	3品目	3品目	○	3品目
⑤ 社員の工コ検定の合格率	64.6%	80.0%	○	100%

※購入電力の炭酸ガス排出係数 年間実績：0.408kgCO₂/kWh

※電気使用量及び上下水道使用量については、子メーターを設置し判断している。

※電気使用量、ガソリン使用量及び二酸化炭素の削減効果については、「年・売上(千万円)当り」で判断する。

(注) SIC 分考慮

【考 察】

- (1) 白箱・ラベル表示の簡易パッケージを継続し、環境負荷軽減とコスト抑制の両立に寄与した。
- (2) 電力使用量、ガソリンの使用量、上下水道の使用量は、節電、節水、エコドライブの徹底により目標を達成した。
- (3) 廃棄物は産業・一般ともに排出量が増加し目標未達成の結果となった、主な要因として、前年度に実施した事業所の統合に伴う不要物の整理があり、これにより一時的に廃棄物量が増加したものと分析している。
- (4) エコ検定については、新たな合格者により目標を達成した。継続実施していく。

E A 2 1 E M S 事務局 森川 真子

【次年度の取組み内容】

- (1) 環境負荷低減に寄与する製品づくりについては、簡易パッケージ化、若しく小型パッケージ化を進め、費用とエネルギー消費の削減を図っていき、目標値を2機種とします。
- (2) エネルギー使用量については、総量の削減はもとより、単位売上当りの指標の評価を行い、目標値の達成を目指していきます。
 - ア 空調については、サーキュレーターを導入して、使用エリアのヒートスポット及びコールドスポットを無くして空調設備の効率的な稼働を目指します。
また、節電等の省エネを担当セクション別に行うこととし、エネルギーの効率的利用を徹底していきます。
 - イ 社員ひとり一人の意識改革を図るため、エコ運転の推進を継続します。
- (3) ゴミ排出量の削減では、引き続きリサイクルを進め、排出量を増やさないように努めるとともに、分別回収ボックスの適正配置などにより、ごみの分別を徹底していきます。
- (4) グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPNDB（グリーン購入ネットワークデータベース）掲載商品の適正な購入に努めます。
- (5) 環境団体等と協働することにより、日常生活や事業活動の中で取り組める具体的な地球温暖化防止等の活動の情報を習得し、業務等に反映していきます。
- (6) 全社員参加意識の継続が課題でもあり、定期的な教育、全社員のエコ検定合格を目指して、環境に対する意識を高めて行きます。
- (7) 「S D G s さがみはらエコ宣言」を行ったことから、S D G s の精神を尊重し、エコアクション21の取組と相乗効果を高めて行きます。
- (8) 「かながわS D G s パートナー」、「さがみはらS D G s パートナー」として登録し、企業、NPO、団体、行政等と連携してS D G s に関する取組や事業を促進させていきます。

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

2024年7月31日に代表者が環境関連法規への違反および訴訟等の有無の確認を行いました。

- (1) 環境関連法規について、過去3年間、現在に至るまで法律違反はございません。
- (2) 環境に関する訴訟についても、過去3年間、現在に至るまでございません。

2025年8月1日
株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇司

【環境関連法規一覧】

① 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	⑥ 消防法
② 資源の有効な利用の促進に関する法律	⑦ 相模原市火災予防条例
③ 相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	⑧ フロン排出抑制法
④ 容器包装リサイクル法	⑨ さがみはら地球温暖化の防止に向けた脱炭素社会づくり条例

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

今年度は、全社的な省エネルギーと環境配慮に対する意識の高まりのもと、電力使用量・ガソリン使用量・二酸化炭素排出量といった主要項目について、年間の総使用量ベースでの目標を概ね達成することができた。特に空調の効率的運用やカーシェアの導入など、具体的な改善策が成果につながった点は評価できる。

一方で、産業廃棄物・一般廃棄物の排出量においては依然として課題が残っており、廃棄物の発生要因の分析や、分別・再資源化の徹底が求められる。また、CO₂排出量や電力使用量などの「売上当たり」の評価指標については、売上高の変動の影響もあり、目標との乖離が見られた。事業の効率性と環境負荷削減の両立が、引き続き重要な課題である。

今後は、生産・営業活動が平常化しつつある状況をふまえ、現実的かつ意欲的な目標設定を行うとともに、社員一人ひとりの行動変容につながる環境教育や啓発を強化していく。また、SDGs の理念に基づき、地域や行政、他団体との連携を深め、当社としての環境社会的責任を果たしていく。

さらに、紙資源の削減に向けたプリンター使用の見直しや、日常業務における小さな無駄の排除も継続的に取り組み、全社一丸となって持続可能な経営の実現を目指していきたい。

2025年8月1日
株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇司